

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

REC'D 12 MAY 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 F03004	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/000042	国際出願日 (日.月.年) 07.01.2004	優先日 (日.月.年) 10.01.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ A61L27/06, 27/56		
出願人 (氏名又は名称) 関西ティー・エル・オー株式会社		

1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で _____ 3 _____ ページからなる。
3. この報告には次の附属物件も添付されている。
- a. ☐ 附属書類は全部で _____ ページである。
- ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）
- ☐ 第1欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
- b. ☐ 電子媒体は全部で _____ （電子媒体の種類、数を示す）。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- | | |
|-----|--|
| 第Ⅰ欄 | 国際予備審査報告の基礎 |
| 第Ⅱ欄 | 優先権 |
| 第Ⅲ欄 | 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成 |
| 第Ⅳ欄 | 発明の単一性の欠如 |
| 第Ⅴ欄 | PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明 |
| 第Ⅵ欄 | ある種の引用文献 |
| 第Ⅶ欄 | 国際出願の不備 |
| 第Ⅷ欄 | 国際出願に対する意見 |

国際予備審査の請求書を受理した日 26. 07. 2004	国際予備審査報告を作成した日 20. 04. 2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 川口 裕美子	4 C 9829
電話番号 03-3581-1101 内線 3452		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付かで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)

請求の範囲

1 - 10

有

請求の範囲

無

進歩性(IS)

請求の範囲

1 - 10

有

請求の範囲

無

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲

1 - 10

有

請求の範囲

無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

請求の範囲1-10

文献1: JP 2000-210313 A

文献2: JP 5-131024 A

文献3: JP 5-56990 A

文献1には、粒径100~500 μ mのチタン(或いはチタン合金)粉粒体と粒径50 μ m以下のチタン(或いはチタン合金)粉末を用いたプラズマ溶射により、チタン或いはチタン合金製基材の表面に凹凸層を設け、当該凹凸層をアルカリ水溶液に浸漬処理した後、加熱することにより、非晶質のアルカリチタン酸塩層を形成し、良好な生体親和性を示し、かつ、十分な剪断強度を発揮する骨代替材料を得ることが記載されている。また、文献3においては、粒径100~400 μ mのチタン粉粒体と粒径10~100 μ mのチタン粉末を用いたプラズマ溶射により得られる層の気孔率、剪断強度、気孔径等についての検討が行われている。

一方、文献2には、径0.01~1mmの気孔を有し、気孔率が50%以下である、要素粉末法により得られるチタニウムアルミナイド製生体適合材料が記載されており、当該材料は多孔質であっても十分な強度を有することが記載されている。

しかしながら、文献1-3及び国際調査報告で提示するその他の文献のいずれにも、「チタンまたはチタン合金の一塊からなり、直径100~3000 μ mの三次元網目状に連通した孔と、孔の内面に直径50 μ m以下の穴を有し、空隙率が30~80%である多孔質体」については、記載も示唆もない。

したがって、請求の範囲1-10に記載された発明は、国際調査報告で引用する文献に対して新規性・進歩性を有する。